

図書館フレンズベっぷ

Vol.1

インタビュー

BEPPU
図書館
に
望む
こと

別府歴史資料デジタルアーカイブの安部浩之氏にお聞きしました

いよいよ別府市でも新しい図書館づくりに向け、「別府市図書館・美術館整備構想策定等支援業務」の契約業者も決まり実現へ向けて進んでおります。

今回は、郷土の歴史資料を司書の資格を活かして整理分類し、現在、別府歴史資料デジタルアーカイブとしてインターネットサイトをアップ管理している安部浩之氏のお話を伺いました。

別府歴史資料

別府歴史資料デジタルアーカイブのサイト

検索

Q,1

資料の整理で、
苦労されてることは？



各種台帳

パンフ類

書状

やはり分類方法ですね、これについては、将来的な事も考え、筑波大学図書館情報メディア研究科(旧 図書館情報大学)志村教授の協力を頂きました。具体的には、日本十進分類法を基礎にしつつも、歴史資料に特化した分類法「**近世庶民史料調査分類項目一覧**」を採用、しながら、これでも、**雑項目が膨れ上がる**ために一部、独自の分類基準を設けて分類しています。未だ、整理の途上ですが、より整備して素早くかつ的確に一般に供したいと思っています。

Q,2

別府市の図書館に
期待することは？

「地域の文化度は図書館を見れば解る」と言われますが、図書館は街づくりや市民生活を支える知の拠点として、重要です。

地域のオリジナルを出す意味でも「郷土資料の保存・管理」が大切と考えています。

そういう意味では図書館資料の一部というのはではなく、併設して**温泉歴史資料館**なりの器があると理想だと思っています。そして図書館に大切なことは3点

- ・レファレンス業務(問い合わせを支援・回答する業務)が充実していること
- ・図書購入の選書が的確であること
- ・継続可能な体制であること

につきると考えています。

ところが、他所の図書館動向は、こういった中味を吟味することなく、何もかもボーダレスにして、集客一辺倒だったり、デザイン一辺倒だったり、時に他地域のマネ事に終始してしまうことも多く、現状を憂うばかりです。時代は、すでに「物から事へ」と遷移しています。その時、その地域にしかない「**先人の積み重ねた独自性を貴ぶ**」という姿勢が大切で、歴史を読み解いて、**オリジナルを浮き彫りにしてストーリーを構築していくべき**だと考えます。また、大胆に変えるべきもの、変えてはいけないものを吟味する時にあると感じます。

別府にこそ温泉歴史資料の拠点を...

物から事へ・先人を貴び、ストーリーに導く

現 別府市立図書館
同規模都市比較

人口10万以上 ~ 15万未満
『日本の図書館2017』より

図書費(2017予算)

102 都市中
→ 102位

(平均3千万円、別府9百万円)



数字でみる別府市の図書館

専任職員数

82 都市中 → 83位

(平均12人、別府0人)

専任司書・司書補数

80 都市中 → 81位

(平均7人、別府0人)

※ 専任0人により、枠外順位

蔵書冊数 104 都市中 → 99位
(平均46万冊、別府21万冊)

開架冊数 96 都市中 → 93位
(平均27万冊、別府9万冊)

登録者数 102 都市中 → 101位
(平均6万人、別府2万人)

貸出冊数 104 都市中 → 99位
(平均72万冊、別府28万冊)

※ 数字の端数は繰り上げ繰り下げしています。

2018年7月14日(土)

行ってきました！

竹田市立図書館

カーブした書棚が
館内に優しいリズムを
つくっていました。
低い書棚もいい感じ。



天井が高く白を基調とした空間は
心地よく、開放感もあり
じっくりと本と向き合えそうです。



2017年5月の新館オープンから、1年が経過した竹田市立図書館の見学に会員10人の参加で行ってきました。次長の大塚聡子さんと司書の麻生裕美さんが図書館の説明とご案内をしてくださいました。麻生さんは新竹田市立図書館を考える会として開館前から図書館づくりの運動をされてきた方です。

※館内写真は特別に許可をいただいて撮影しています

お忙しい中
わたしたちの質問に
応えていただきました。
ありがとうございました。



運営方針は？

地域の方との つながりを大切に

司書と利用者の距離感を大切に、家庭的な雰囲気でも地域の方々に接しています。あえて自動貸出・返却機も入れなかったのは、地域の方とのつながりを大切にしたいと思ったからです。

モダンな外観、居心地のよい室内、
そして何よりスタッフの想いの熱さに
図書館を育てるのは人なのだと…感じた

としょかん
新
オープン
図書館
訪ね



大塚聡子次長(右)
司書の麻生裕美さん(左)

図書の選定について

司書で相談し選書 地域の特性を考えながら

新館オープンに伴い6000万円ほどの予算がつけました。当図書館に足りない分野に力を入れて、いろんな資料を参考に選書しています。

竹田は近年芸術家の方が多く移住されているので、芸術系の本を揃えたり、また絵本は同規模の図書館に比べても多いのではと思います。

開設後の変化は？

近隣市町村の登録者も増え 竹田の町のにぎわいに…

来館者数は1年間で約2倍になっています。年間6～7万人が利用しました。近隣市町村の登録者も増えており、竹田の町の賑わいにもなっていると思います。



図書館を見下ろす2階の部屋。



くつを脱いで入るスペース。
ここは絵本がたくさん。

竹田図書館 data

平成30年3月31日現在

竹田市の直営による運営

蔵書状況／132,000冊
(平成29年度末)

利用状況／66,342人(年間)

貸出人数／22,790人

貸出冊数／108,752冊

延床面積／1577.62㎡

竹田市人口 2.261万人

外観



児童書
コーナーにあつた
ユニークな椅子



戦争を考える、伝える
児童書のコーナー

新たに図書館を開設
するときのアドバイスを

(司書の麻生さんから)

**竹田は図書館がほしいという
お母さん方の声から始まった
図書館のことを真剣に考える人たち…
その存在が大事**

竹田ではPTAの中から新しい図書館がほしいと声が上がって、平成8年にPTA図書館研究会を立ち上げました。

市が新しい図書館を検討する中で「市の直営にするか」「指定管理にするか」の話し合いがあり、新竹田市立図書館を考える会としては「ぜひ市の直営にしてほしい」と願っておりました。直営になって本当に良かったです。図書館の事を真剣に考える市民と行政が協力してここまできたと実感しています。

図書館は資料・人・建物が大切です。図書館がこれから成長できるかどうかは、それにかかっています。

図書館は誰でも分け隔てなく自由に利用出来る素晴らしい場所です。竹田市立図書館は県内在住の方はどなたでもご利用(貸し出し)出来ます。

参

加

者

感

想

図書館は未知への道しるべ

一番に気づいたのは、本棚が高くないことに興味しました。低すぎたり高すぎたりすると視界に入らないことがあります。この図書館ではゆっくりとした時間が流れていることを短い時間でしたが、感じとることが出来ました。全体の木の温もりと本の見せ方にも工夫がこらしてあります。

竹田という町の文化の高さがこの図書館には反映されていました。図書館の魅力は本だけではなくて好奇心を与えることが一番の役割だと思います。今はインターネットの時代で本などは読む機会が少ないように思われますが、いつの時代でも本は大切なもので、本こそ未知への道しるべだとあらためて思いました。(K.T)

魅力的な図書館がある町は 住みたくなる町

町にこんな図書館があったら、そこに住みたくなるなあと思いました。竹田の町にとけ込んだ外観も素敵でした。

司書の麻生さんの「図書館はまずは本。しっかり予算も付けてもらって、じっくり選書して竹田らしい特色ある図書館にしていきたい」と熱く語る姿に関わる人たちの熱意が図書館をいきいきとさせている！と感じました。

別府の新しい図書館づくりも市民参加で行っていくことで、地域に愛される拠点になるのでは？ 図書館に関わる人たちが図書館と共に育っていくような、市直営の図書館になったらいいと思います。(A.K)

自治体には図書館をもっと大事に扱ってもらいたい。



三田評論 ONLINE
2018.7 月号より

片山 善博

早稲田大学大学院政治学研究科教授、
元慶應義塾大学法学部教授、元鳥取県知事

大切に扱うとは、図書館の予算をもっと充実する、図書館のスタッフ、わけても司書の配置を充実し、その処遇を改善することなどを意味する。また、図書館の管理を安易に外部化したり、図書館を賑わい創出のための道具にしたりしないことをも意味する。

しかし、現実には図書館の予算や体制が貧弱な自治体は少なくない。また、近年とみに図書館の管理運営を外部化する自治体が増えているし、そこでは図書館が賑わい創出の場として提供され、もはや図書館と呼ぶのが憚られる施設と化してしまっている事例も散見されるようになった。情けないことだと思う。

図書館と自治体行政、図書館予算についても地方自治に携わられていた方ならではの鋭い視点で踏み込んで語られていて面白い！
ぜひネットで全部読んでみて！

肝心なことを
言ってくれてる！

図書館の本来の役割を見失ったかのような話し合いやワークショップだったり…、どこかモヤッとしているところへ、ビシッと一言でくださいました！
洒落た建物に本たくさん置いただけでは、図書館じゃない…そんな奥深い重要施設だということが伝わってくる。
別府の記憶は別府の図書館が担うもの。
そう考えると、大切なことが見えてくるぞ。

ネットから新聞から本から

見つけた図書館への意見

(抜粋掲載)

月間社会教育より(2018.2)

小澤 俊夫 筑波大学名誉教授・小澤昔ばなし研究所 所長

図書館は国の記憶装置

近頃、図書館をもっと楽しく、市民の願いの場として気楽なところにしてほしいという意見がある。書店が経営したり、喫茶店が入っているところがあるようだ。県や町にしてみれば、経営の負担が減るというメリットがあるのだろう。

だが、わたしは、永年図書館を使って研究と仕事をしてきた人間として、そういう考え方には全く賛成できない。国家は長い歴史を持ち、これからも長い歴史を積み重ねていく。国家が成り立つためには、いろいろな先進的な研究と実践が必要である。医学、物理学など、そして文学、経済学など。それによって国家は豊かになり、人々の生活は保たれる。その研究は記録され、さらなる発展のための資料として保存されなければならない。

その保存場所は図書館である。もっと個人的な、心の豊かさを求める文学や芸術、娯楽なども必要である。創作、開発の成果は必ず保存されなければならない。これも図書館にである。

図書館は国家の記憶装置なのである。従って毎日多数の来客があるわけがない。来客が少ないからと客寄せの喫茶店を入れるなど、全般的な外れである。軽い読み物とお茶も飲める場所が必要と考えるなら、市民の福祉のためにそういう場所をつくれればいい。それは地方公共団体のすべき仕事ではないか。

国家の記憶装置を破壊することのマイナス結果は、数十年後には顕在化するだろう。「記憶喪失国家」となると深刻である。

掲載の文章全文については出典元をお読みください。

別府市に新しい図書館を実現する会とは



この会は、すべての市民が豊かな図書館サービスを受けられるため、市立図書館のあり方について学習し、新しい図書館実現のために行動することを目的としています。

発行 別府市に新しい図書館を実現する会 代表 佐藤慶子
(会費…年 1000円、いつでも入会可)

連絡先／〒874-0906 別府市天満町 2-28 中村佐市 TEL 080-1711-3461

ご意見ご感想をお聞かせください